

天使

PER CARITATEM
AD VERITATEM

vol.35 August 2023

T E N S H I C O L L E G E

受け継がれる天使の伝統を未来の看護に



多様化複雑化する保健医療の ニーズの中で求められる看護

日本は、世界に類をみないスピードで少子高齢化が進展しており、2040年には高齢人口が

ピークとなり、高齢者のケアニーズの高まり、慢性疾患管理や看取りのケアが重大な健康課題となります。その一方、少子化による急激な人口減少により、ケアを提供するマンパワー不足が予測され、また、労働力人口の減少により、社会保障体制の維持が困難になるともいわれています。このような社会基盤の脆弱化に加え、健康格差の広がり、グローバル化の進展、地球規模の課題等、保健医療のニーズは、多様化し、複雑化しています。

「看護の将来ビジョン」¹⁾の中で看護職は、「医療」と「生活」の両方の視点を持ち、地域のすべての人々の「いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護」を多様な場において実践することが必要であるとされています。病（やまい）や障がいと共に生きる人、地域で暮らすお年寄りから赤ちゃんまですべての人が、より健康にその人らしく暮らせるように、対象を生活者としてとらえ、予防の視点をもって、多職種と連携してケアを提供すること、誰もが必要なケアを受けられる地域ケアシステムの構築が求められています。

これからの社会に求められる人材と天使の教育

これからの社会は予測困難な時代と言われ、持続可能な社会の実現が望まれます。持続可能な社会の実現には、一人一人が自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き「持続可能な社会の創り手」になることを目指すことです。また、多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに地域や社会が持続的に良い状態であること、すなわちウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に良い状態にあること）をめざし、誰もが、地域や社会とのつながりやかかわりの中で、「ウェルビーイングの向上」を目指すことが重要です。²⁾

看護学科長 吉田礼維子

持続可能な社会の担い手として求められている人材育成に謳われている内容は、まさに、天使大学が建学の精神としてきた他者との出会いの中で自分を見つめ、他者を尊重し、他者のために仕え、人々とともに歩もうとする人間愛に通じるものと考えます。

患者さんに向き合う姿勢は、諸先輩から受け継がる長きにわたる天使の看護の伝統です。真に向き合い患者さんのことを思う時に、病気のことも生活のことも含め、目の前にいる方を全人的に理解することができ、看護者としての必要な知識・技術を備え、対象の立場に立った看護を実践することができます。この姿勢は、時代が変わっても常に変わらぬ看護の姿勢として受け継がれていくものです。

天使大学で養成する看護職

看護職は、キュアとケアを統合させた役割を果たす職種です。すなわち、科学的根拠に基づき病気を改善するキュアと対象を全人的にとらえ最適な健康状態をめざしたケアを統合して看護を実践するのです。キュアの側面では、科学的根拠に基づく臨床判断能力や高度な看護実践技術が、ケアの側面では、観察力、コミュニケーション力、対象を理解し尊重し、倫理的に行動する力が、そして何よりもキュアとケアを統合した看護の実践には、人に寄り添うことのできる人間愛が必要です。ここに、カトリック大学としてのキリスト教的人間観に基づいた人間教育が生かされ、専門的知識および実践力に優れた人材を養成することができます。

多様化、複雑化するヘルスニーズに対応した看護を創造していくためには、氾濫する情報を適切に入手し、その内容を理解、評価し、活用することができるリテラシーが必要です。対象に応じたケアを提供し、関係者と協働していくためにはコミュニケーション力も必要となります。天使大学では、時代の変化に応じて、必要なことを見出し、他者とともに、愛をもって責務を果たすことができる人材を輩出するために、伝統である真に向き合う姿勢を育てるとともに、生涯にわたり自ら考え、行動し、成長し続けることのできる看護職を養成していきます。

引用文献

- 1) 菊池令子、日本看護協会編：「看護の将来ビジョン」の策定経緯と骨子 平成28年度看護白書 日本看護協会出版会 2016
- 2) 教育振興基本計画 令和5年6月16日 閣議決定

新任教員紹介

認知症高齢者へのケア提供に関する研究



看護学科教授 浅井 さおり

2004年から天使大学の教員を3年間勤め、今年の4月から再び着任しました。その昔天使女子短期大学を受験し合格したものの高校の恩師に「お前に天使は合わない」と謎の指導を受け、経済的理由もあって他短大に進学しましたので、不思議なご縁を感じています。専門は老年看護学で教員経験は18年になりました。高齢者は知れば知るほど内面の豊かさを発見します。看護の対象者としてだけでなく人生の先輩として生き方を身をもって教えて頂くことも多いです。

大学院博士課程では認知症高齢者へのケア提供に苦勞するスタッフが多く、高齢者もケア提供者も苦痛な状況があることから、意図するケアが遂行できるためのケア提供場面での相互作用を研究しようと取り組みました。参加観察と場面に対する看護師へのインタビューでデータ収集を行い質的記述的分析を実施しました。協力施設の認知症専門

棟で毎日認知症の人と一緒に過ごしながら研究協力者の看護師が研究協力者の高齢者にかかわる場面をひたすら待ち、1分半～3分のケア提供場面のデータをとりました。この経験は認知症の人々の豊かさを知る貴重な時間にもなりました。結果、看護師はその時々々の認知症高齢者の反応を手掛かりにケアの続行や中止の判断をしてケアを実施していることがわかりました。看護師は出会いの時の観察と最初の声かけて得られた高齢者の反応でケア提供の成り行きを予測し、関わり始めの成り行きの予測はおおむね外れることはなく、予測内容からかかわり方を選び、随時反応をみながらケアを遂行していることが明らかになりました。

ケア提供が困難な認知症高齢者へは複数のスタッフでケア提供することがありますが、実際には複数スタッフでのケアの方が円滑にいかない場面にも出会います。1対1の相互作用を研究してきましたが、今後2名のスタッフでのケア提供場面についても探索をしたいと考えています。

精神障がいのある方の地域生活を支える看護



看護学科准教授 草野 知美

4月より看護学科教員に着任いたしました。担当する分野は精神看護学です。私は天使大学の前身である天使女子短期大学を卒業後、総合病院に勤務しました。看護師として、また年齢を重ねるうちに、人間の心理的側面に興味を持ち、他大学で心理学を学びました。その後、精神科での看護経験を経て、実習指導教員、他大学で専任教員として学生教育に携わってきました。再び天使大学で過ごせることを、嬉しく思っています。大学周辺は、ずいぶん変わりましたが、構内には学生時代を思わせる箇所がいくつも懐かしさを感じています。

私が取り組んできた研究は、「精神障がいのある方の地域生活」を支える看護に関するものです。当事者の方、当事者の方を支えているご家族、支援者の方を対象にしています。博士課程では、発達障がいのあるお子さんが二次的な精神疾患を起こさないために、子ども自身が自分の特性を肯定

的に理解する必要性を感じ、子どもの肯定的な自己理解をどのように支えるのか、という視点から研究を行いました。具体的には、自閉スペクトラム症のある子どもの母親に、お子さんにどのように特性や診断名を伝えたのかその過程についてお話をうかがいました。多くの母親は、子どもに特性や診断名を伝えることに不安や困難を抱いておりましたが、このような母親を支えていたのは、一つに専門家からの支援がありました。残念ながら今回の研究では、看護師は母親を支える専門職として認識されていませんでした。しかし、保健所や保健室、専門外来など子どもの発達過程に看護職は必ずあります。看護職が、発達障がいのある子どもの母親の状況を理解し、母親や子どもへの支援について検討することができれば、より早く専門的な支援につなげる看護を提供することができると考え、そのためのツールを作成しました。今後は、ツールの実用化を目指したいと考えています。天使大学の建学の精神を心に、学生とともに学び、自己研鑽に努めたいと思います。

急性期看護、クリティカルケア看護における実践の可視化・言語化



看護学科助教 木村 禎

私は、2015年に急性・重症患者看護専門看護師を取得し、主に周術期ケア、クリティカルケアに関わるユニットで勤務をしていました。天使大学には、非常勤講師として大学院生への講義に関わり、この度2023年4月から教員として勤務をしています。

私はこれまで、自らの看護実践を通し、また所属施設内外の看護師への継続教育や卒後教育を通し、急性期看護、クリティカルケア看護における実践の可視化・言語化に取り組んできました。クリティカルケア領域で、新人看護師や他部署から異動してきた看護師から、「ここで看護が何かわからない」、「今まで自分が大切にしていた看護ができない」といった言葉が聞かれることが少なくありませんでした。重症であればあるほど、患者さんには様々な医療機器が装着され、明確に患者さんと意思疎通を図ることが困難な状況となります。自分が行っている看護が患者さんのためになっているのか、目に見える変化や反応としてはわかりにくく、達成感や看護に対するやりがいを感じにくいのかもかもしれません。しかし重症な患者さんに関わるからこ

そ、些細な変化にも目を配り、注意深く全身状態を観察し、患者さんにとってのケアの必要性を慎重に判断することが必要となります。自分が行うケアが重症な患者さんにとって侵襲に成り得る可能性があり、だからこそ、解剖生理学の知識、疾患や病態に対する深い理解に基づいたフィジカルアセスメントと、それに基づく根拠を持ったケアということが重要になります。重症な患者さんへ展開される看護、その思考のプロセスの可視化、言語化を通して、急性期看護、クリティカルケア看護に関わる看護師の実践力向上、看護にやりがいを感じられるように教育、研究に取り組んでいきたいと考えています。

また、私はこれまで継続教育、卒後教育として倫理に関する教育、臨床での研究に取り組んできました。臨床における倫理的問題は様々であり、その中で患者さん・家族のそばでケアする看護師には、高い倫理的感受性が求められます。現在の私の研究の中心的な課題は、看護師の倫理的感受性を如何に向上させるかということで、臨床で求められる倫理的感受性や integrity の概念について研究を進めています。今後も倫理学の見地から臨床倫理、看護倫理に関する教育・研究に取り組んでいきたいと考えています。

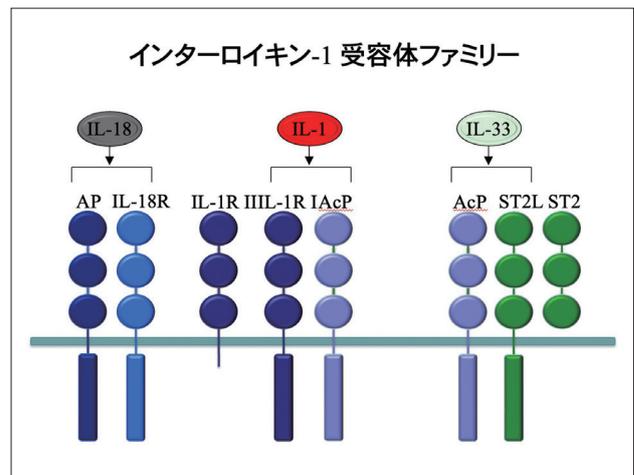
遺伝子から栄養へ



栄養学科教授 柳澤 健

私は旭川に生まれ、父親の仕事の関係で、札幌、網走、帯広と、子供時代に道内を転々とし、生粋の蝦夷っ子と言えるのではないかと思います。札幌西高から北大に入り、今でも天気のいい日は歩いて天使から北大まで散歩しています。卒業後、大学院生として当時のがん研究施設生化学部門に入り、がんの研究を志望しました。その時の教授で指導にあっていただいた牧田章先生と、先輩としてご指導いただいた大久保岩男先生は、後年、天使大学で教鞭を取られています。また、一年お世話になった臨床の教室には、武蔵学先生がおられて、後年、天使大学の学長を勤められる、というご縁がありました。

大学院卒業後、栃木県の自治医科大学の生化学教室に職を得て、その後は主に細胞生物学的研究を行ってきました。その間、アメリカのマサチューセッツ州ウースターに留学して、牧田研から続いていた複合糖質の研究をしたのも、いい思い出です。その後、自治医科大学に戻り、細胞の増殖制御を主なテーマとして、いくつかの、遺伝子をクローニングし、一つは、後にIL-33というサイトカインの受容体であることが明らかになりました。この分子は、受容体として働く他、その分泌型が、炎症や心疾患のマーカーになることが報告され、さらにその機能が明らかになっていくと考えます。教育でも、微量栄養素と白血病の関連など、分子生物学的アプローチから、栄養学的知見を考えてもらうような講義も行ってきました。



天使大学に職を得た今、研究としては、栄養学からアプローチして、それが転写調節など分子生物学的制御に影響する機構を検討していくことを考えています。栄養分子も転写因子のコファクターになるビタミンDなどの他に、種々の鎖長の脂肪酸やその代謝産物が7回膜貫通性受容体のリガントとなることが判明してきて、ここにも栄養素の機能に細胞生物学的アプローチをしていく機構が存在しており、興味を持っております。

社会資源の少ない地域における特別支援教育・インクルーシブ教育の推進



教養教育科教授 二宮 信一

もももとは、民間の社会教育団体で、子ども達の野外活動（キャンプやスキー）のディレクターや専門学校・幼児教育部門の担当など青少年教育の現場にいました。肢体不自由や自閉症など障害のある子ども達の野外活動も行っていました。健常な子ども達のキャンプに発達障害（LD、ADHD、高機能自閉症）のある子どもが参加していて、「この子ちょっと心配だなあ」と思ったのが、今道を選択することになったきっかけでした。その後、LD親の会との出会いがあり、発達障害のある子ども達の支援プログラムを開発し、指導をしていました。

私の関心はもちろん「子ども達」なのですが、当時（1995年頃）は、LD、ADHD等の理解も広がっておらず、孤独感・孤立感の中におられた発達障害のある子どもの子育てをされている保護者の方や担任している通常学級の先生方の支援が必要だと思い、発達障害に関わる「大人」を支える仕組みやネットワークの構築についての研究を始めました。

特別支援教育のデザインは、連携協議会や専門家チームを作るなど、専門家がいることを前提としています。しかし、広大な北海道における過疎化の進行は、医療の後退につながり、産婦人科医のみならず、小児科医もいない町がすでにあり、今後、特別支援教育に関わる医療や心理などの専門職が、へき地や郡部に常住する可能性はなく、この状態が今後も続くことが予想されています。この問題は都市部においても共通しており、児童精神科や心療内科は3か月待ち、半年待ちがすでに常態化しています。

そこで、専門家は必要なのですが、専門家に過度に依存しない地域のシステムやネットワーク形成の構築が必要なのではないかと考えています。自治体には、保健師など子育てを支える資源があります。そのような方々と共にコミュニティ・ベースドというパラダイムで、地域の特性に合わせたインクルーシブ教育を推進していくという研究を、まだ、職に就いたばかりですが、続けていきたいと考えています。

2023年度 天使大学・北海道科学大学連携公開講座について

「いのちみつめて」をテーマに、医療、薬学、看護学、栄養学の各分野から、生活に役立つ情報をわかりやすく解説します。昨年度に引き続き YouTube によるオンデマンド配信で実施します（事前の受講申込が必要です）。

○期間（予定）：2023年10月～12月

○申込方法：天使大学ホームページより申し込みを行ってください。

※申込ページは9月中旬頃 掲載予定



新任教員紹介（天使大学卒業生） 出会いからひろがった私の研究テーマ



看護学科助教 吉田 奈美江

私は天使大学の卒業生で、実習で乳がんの方を担当し、卒業研究は「乳がん術後患者のボディイメージの変化」がテーマでした。それをきっかけに、がん専門病院へ就職を決め、配属先で今度は「乳房外パジェット病」という外陰部の皮膚に好発するがんの方々と出会います。部位が外性器という特性上、ためらって受診が遅れ、処置時に羞恥心を伴うなど精神的苦痛が大きい疾患でした。そこで、「乳房外パジェット病術後患者のボディイメージとセクシュアリティの適応」というテーマで、患者さんにご自分の身体や心の変化についてどのように捉えているかをインタビューし、日本がん看護学会学術集会で初めてポスター発表したのが2010年です。

学部生の頃から、誰もがボディイメージやセクシュアリティについて揺らぎ戸惑うにもかかわらず、支援が少ないことがずっと気がかりでした。そして、天使大学大学院へ進学し、ここでも忘れられない患者さんに出会います。修士論文は「婦人科がん術後患者に関わる看護師のセクシュアリティの認識と援助」をテーマに、看護師がどのように患者さんの

セクシュアリティを認識し援助しているかを調査しました。すると、生命の危機に直結しない優先順位の低い話題として認識し、術後のパンフレットに性生活指導の記載がごくわずかにあるのみで、看護師はどのように援助すればよいのか戸惑っていることがわかりました。

2012年にがん看護専門看護師の認定を受け、研修会や書籍の執筆を通してセクシュアリティの基本的ケアの重要性を微力ですが訴えてきました。また、スピリチュアルペインのケア、リハビリ専門職との多職種連携、教育支援についても学会発表をしてきました。4月からは臨床を離れて天使大学の教員となり、今後はセクシュアルマイノリティの当事者支援や、対人援助職への教育支援の研究に力を入れていきたいと考えています。

学部在学中は、章の会に所属し勉学と学校行事の企画・運営に追われていました。当時は必死で気づけませんでした。今の私があるのは教職員の方々の手厚い支援のおかげであり、感謝の気持ちでいっぱいです。私自身がそうであったように「天使で学べてよかった」と学生が思える教育支援をしていきたいと思っています。

看護分野におけるバイオフィードバック療法の活用に関する研究 —そして、学生とともに人として成長していきたい



看護学科助教 中野 香織

私は学生の頃から教育に興味を持っており、知識を提供するだけでなく、学生が人として成長する過程に携わることができる看護学教員に魅力を感じていました。この度、恩師に声をかけていただき、久しぶりの母校へ戻ってきました。

天使大学を卒業後、市内の急性期病院で勤務し主に消化器がんの周手術看護や内科的治療を受けられる患者さんへの看護などに関わってきました。病棟での勤務だけではなく、ストーマ外来を数年間担当し、地域で暮らす患者さんとも接してきました。この外来を通して、一時的な人工肛門を造設した患者さんは、それぞれが工夫をしながら人工肛門の管理を覚え、慣れたところで閉鎖術を向かえ、その後は新たに排便障害に直面するという現状を知りました。少しでも人工肛門閉鎖術後の排便障害を軽減するため自分ができることはなにかと考え、排便状況の経時的変化や影響などを明らかにしていきました。臨床での経験を大事

にしたいと思い、働きながら大学院へ進学し、一時的な人工肛門閉鎖術の患者さんに対してバイオフィードバック療法を施行し、その効果について検討していきました。人工肛門閉鎖術の患者さんに対するバイオフィードバック療法とは、肛門括約筋収縮の状況をモニターに表示させ、人工肛門造設期間中に低下した肛門括約筋の収縮感覚を他覚的に捉えるものです。この研究の結果、バイオフィードバック療法がもたらす視覚化は肛門括約筋の収縮状況に対する気づきだけではなく、行動変容のきっかけや自己効力感を高めることが明らかになりました。

今後はバイオフィードバック療法を看護の中でどのように活用できるか検討していきたいと考えています。また臨床において、新人看護師の教育担当者として病棟に配属された新人看護師の育成にも携わっていました。この経験を活かし、臨床判断能力を高めるために看護大学が取り組めることなど教育に関する研究も行っていきたいと思っています。これからどうぞよろしくお願いいたします。

病院勤務での経験を活かして



栄養学科助手 佐藤 しおり

私は天使大学を卒業後、臨床分野に興味があったことから、病院に就職しました。入職当初は、患者様の把握や他職種との連携が難しく、とても悩みながら栄養管理を行っていた記憶があります。その中で、患者様や他職種との関わりが少なく感じ、病棟での申し送りやカンファレンスに参加するようになりました。最初は「何で栄養士がここにいるの?」と聞かれることが多々ありましたが、徐々に食事変更の提案や、栄養指導に繋げることができるようになりました。ほぼ病棟に常駐するようになったことで、どんなリハビリを行っているのかを目で見て確認できるようになったことは、大きなメリットだと思います。また、毎日患者様と会うことで、栄養指導時に本音を聞くことができると感じました。脳神経外科でしたので、嚥下障害や麻痺など後遺症が残る患者様が多い中、食事の話だけではなく、今の気持ちや今後の不安など聞く役目もあるのだと思います。最初は無口だった患者様が徐々に話してくれるようになった時や、栄養状態不良であった患者様が元気に退院

していく姿を見た時は、喜びややりがいを感じました。

その後、実際に給食管理を現場で学びたいという気持ちがあり、クリニック兼、サービス付き高齢者向け住宅に入職しました。何年間も管理栄養士がいない状態でしたので、一から環境を整えるところから始まりましたが、衛生管理の重要性を理解し、実践してもらい難しさを痛感しました。いろいろと苦戦しましたが、行事食などを通して、コロナ禍で暗くなりがちの入居者様の表情が明るくなる様子を見て、とても喜びを感じました。そして、経験豊富な調理師の方から実践的な料理の知識や技術を楽しみながら学ぶことができたことは、この職場に入職して良かったことの一つです。

病院と給食現場での経験から、それぞれやりがいを感じることができたと同時に、人に伝え実践してもらい難しさを実感しました。そして、この度ご縁があり天使大学へ入職させていただき、日々先生方の根柢を持って伝える力を真の当たり前にして、毎日が学びになっております。今後も管理栄養士としての学びを怠らず、これまでの経験を活かして職務を全うしていきたいです。

現在学んでいること

入学までの道のりと現在の学びについて

栄養管理学専攻博士前期課程1年 金野 ゆみ

私が大学院への進学を最初に意識したのは天使大学を卒業した2年後でした。在学中にお世話になった先生が「大学院に行ってみるのはどう？」と教えてくださったことがきっかけでした。学部生の時は全く考えていなかった選択肢でしたので、「何のために大学院へ？」と疑問に思いましたが、徐々に気になってきて始めてみることにしました。当時私は地元で働いていたため天使大学へは通えず、栄養学専攻ではない通信制の他大学院の科目履修生になりました。天使大学の大学院への進学を考えたのは、管理栄養士として勤めていくうちに自分には専門と呼べる分野が無いと感じるようになり、栄養学専攻の大学院へ進学したいと思ったからです。

現在は、研究の基礎となる授業を受けています。学部生の時に習っていても忘れていたこと、新しく変わっていること、学部から一歩進んだ内容が多々ありました。そして一番の学びは、自分がいかに知らないことが多いかという現実を自覚できたことです。これに気が付くことが無ければ、その先へ進むことはできないと思います。随分時間がかかりましたが、先生が進学を勧めてくれた意味の入り口が、ここでやっと見えてきたような気がしています。

大学院の授業やゼミは少人数制で丁寧な指導を受けることができます。また、共通科目は看護学専攻の学生さんと一緒に授業を受けます。ディスカッションやプレゼンテーションを通して、自分とは異なる視点の考えを聞くことができることも大きな学びとなっています。

最後に、天使大学の大学院ではここに書ききることができない程、たくさんの方々が様々な方向から手を差し伸べてくださいます。そのご厚意に応えるためにも、一つ一つの学びを丁寧に積み重ねて、修了までに修士の学位にふさわしい知識と能力を身に着けたいと思います。無事に研究を終え修了することができたとき、広い広い栄養学の中から自分の専門としたい分野を見つけられていたら良いと思います。例え小さな発見でも、見える世界が違ってくるのではないかと期待しています。



先輩院生の研究発表を聴講

大学院での現在の学び - 利尻町での現地講義を通して -

看護学専攻保健師コース1年 堀川 絵小吏

私は今年3月に天使大学看護学科を卒業し、4月から大学院の保健師コースに進学しました。今年度は、男子学生1名を含む計8人で保健師を目指し、互いに切磋琢磨しながら学習しています。

私たちが学部生の時は、まだまだ新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっていたことから、学部での講義や実習はリモートで行われることが多かったです。そんな中、学部の4年生頃から、流行が徐々に下火になってきて、制限付きではありますが実習が少しずつ再開してきました。今年の講義はほぼ全て対面で行われており、毎日のディスカッションやグループワークを通してとても充実した日々を送っています。

大学院に入学してからは、沢山の課題や授業に追われ多忙な日々を送り、3か月があっという間に過ぎました。

6月に行われた、利尻町での現地講義では実際に現地に出向くことができました。利尻町へ行く旅路では、バスやフェリーを乗り継ぎ、離島に行く際の交通の便の実態を知ることができました。利尻町では、実際に利尻富士はじめとする現地の広い海、特有の花や生き物といった豊かな自然に触れることができました。また、住民の方々からの講義や地区踏査を通して、温かさを感じることができました。

離島での保健師の活動の実態や、多くの専門職との連携を知り、離島という環境の中で限られた資源を活用して住民の健康を守っていることを学ぶことができました。

離島という小さいコミュニティの中だからこそ、保健師と住民が近い距離で関係を築くことができ、お互いの顔が見える距離で協力しながらそれぞれの健康課題に向き合っている姿が印象的でした。

このような親密な関係性と、保健師と住民間の強固な信頼感の下で行われる支援が、利尻町の課題である生活習慣病が多いことの改善や少子高齢化を少しでも食い止めることに繋がっていることを学びました。

これらの学びから、離島での保健師の役割は限られた資源を最大限に生かしながら、他職種と連携して離島での暮らしやコミュニティを支えること、住民が住み慣れた地域で少しでも長く暮らせるよう、予防できる健康問題は早期に予防できるような支援を行っていくことであると考えることができました。

今後もこの学びを活かしながら、保健師になるためより一層学業に励んでいきたいと思います。



利尻町へフェリーで移動

現在学んでいること 「つながり」



看護学科3年 馬場 紗江

新型コロナウイルス感染症の中での学生生活も3年目に入り、残すところあと2年を切りました。どんどんと授業の内容が専門的なものになる中で、私が強く意識するようになったのは「繋がり」です。

1年生の頃から、様々な教科の先生方から今の学びは大学での今後の学びもそうだし、働いてからも繋がっている、看護は繋がっていると聞いていました。その当時は全くと言っていいほどその言葉にピンとこず、一つ一つの学びを繋げて考えることができませんでした。2年生の後半から領域ごとの看護を学ぶようになり、基礎で学んできたことをベースに学びを発展させていくようになり、また、今年になり、在宅看護や地域看護といった、病院以外の場所で療養や生活する人への看護を学ぶようになり、病院で終わりではなく、自宅に戻った後にも看護が繋がっていることに気がきました。他にも、基礎看護で学んだことが各領域での看護を行う上での礎となっていたり、授業で習った知識が他の授業で習った知識と繋がっていることに気づくようにもなりました。

私は今の学びを発展させ、将来は保健師になりたいと考えています。保健師になったと際に、私がこれまでの高校、大学と過ごしていく中で出会った人との縁が、私

が保健師となった時に力になるのではないかと考えています。保健師となり、今後さまざまな分野で活躍していただろう仲間たちと連携して、地域の健康の増進や感染症予防などを行って行けたらと考えています。3年生になり、本格的に自身の進路を考えた時に、私のこれまで築いてきた縁が多くの人役に立てるとなればそれはとても素敵なことだと思います。そのため、私は人との繋がりもまた、学びの繋がり同様重要であると考えます。この2つの繋がりを大切に、私の看護師、保健師への道を切り拓いて行きたいです。



友人と一緒に発表資料の準備

新しい環境での学び ～友人の偉大さと自己管理の徹底～



看護学科1年 夏目 由芽

入学して約3か月が経った現在は、コロナによる厳しい制約が緩和され、対面授業とオンデマンド授業を並行して受けています。対面授業では、グループワークが活発に行われており、新たな考え方を知らずにはなったり、自分の考えを深められます。マスクの着用が個人の判断になり、学生や先生方の笑顔、真剣な表情が見える中で授業を受けるのが中学生ぶりだったので、久しぶりの感覚に新鮮さと幸せを感じました。オンデマンド授業では、自分のペースで、先生方が作成した授業動画を見ることができます。また、理解できるまで何度も

見返せるので、分からない部分をそのままにすることが減りました。ほとんどの教科に予習・復習課題があること、そして授業時間が高校時よりも長くなったことから、一回の授業での学びがとても貴重のものに感じます。

そのため、授業時には真剣に取り組み、充実した学びが得られるように、私は自己管理を徹底する必要がありました。学習の計画や課題の提出期限だけでなく、一人暮らしでの家事やサークル、アルバイトの時間もスケジュール帳に記録することで、やるべきこととやりたいことの区別と両立ができるようにしました。また、授業の一環として、同級生同士で学習方法や自己管理方法について紹介し合ったり、先輩方から学習のアドバイスをもらう機会を設けて頂いたことで、それらを参考にしながら自分の学習スタイルを確立させていきました。現在では、以前よりも学習を効率的に進め、自分の時間も確保できるようになりましたが、それでも情報が抜けてしまうことがあるので、友人と確認し合うことを大切にしています。

入学してからの3か月間で新しい環境の中で様々なことに挑戦し、大変なこともありましたが、友人の支えがあって乗り越えることができました。これからも、天使大学の看護学生である自覚と向上心を忘れずに、友人と励まし合いながら学び続けていきたいです。



友人と一緒にテスト勉強

現在の学びと今後の目標 ～経験から学ぶことの大切さ～



栄養学科4年 新木 良菜

栄養学科としての学習も大詰めとなりました。3年生までは、管理栄養士になる上で必要な最低限の知識の習得に臨んできましたが、4年生では習得した知識の応用やより実践的な学習が主流となりました。臨地実習では保健所や保育所、病院や学校など、選択肢は様々で、各々が学びたい分野を自ら選んで現場での実習に臨みます。臨地実習は、社会に出た後では経験できないような、多様な知見と経験を得られる大変貴重な機会だと思います。私は、8月に3週間の病院実習に行きますが、そこには様々な病気を患った患者さんが入院しています。そのため、一人一人患者さんの性格や生活背景に合わせた栄養管理やコミュニケーションを取る臨機応変な対応力が必要になると思います。そういった教科書では学べないような、より繊細で複雑な部分を学ぶことができるという点が臨地実習の醍醐味だと思います。

管理栄養士という職業は専門知識は持って当たり前、それ以上に誰かのために尽くし、誰かの健康や幸せを願う献身的な人間力を持つことが大切であると私は思います。4年次では、実習の他に就職活動も本格的に始まっているため、いよいよ社会人になる上での準備を進める時期になります。そのため、実習や日常での授業を通して、知識を得るだけ

でなく、人間性の部分でも成長していきたいと思っています。

私は、4年生になった今でも自分自身の夢ややりたいことが曖昧で、明確な目標を持っていません。しかし、食を通して誰かを幸せにしたいという想いは入学当初から変わっていません。そして、今現在栄養学を学べば学ぶほど、栄養学の素晴らしさや可能性を実感します。食事は人々の健康を守り、多くの人を笑顔にします。それは、例外なく病気を患う人に対しても同じです。私は、病気を患い、生活が制限されてしまった方に対しても美味しく食事をしてもらうために、残りの1年間はさらに学びを深めたいと思っています。



国家試験に向けて勉強中

管理栄養士になるために～友人と協力しての学び～



栄養学科1年 鈴木 心乃

私が天使大学に入学してから3か月が経ちました。今はコロナも落ち着いてきて日々の学校生活や授業もコロナ前の生活と同じような生活を送っています。入学式の時は知人が少なかったため友達ができるか不安でしたが、「出会いと親睦のゼミ」で多くの人と交流し、気の合う友達ができました。また天使大学の先生方はすごく温厚な人たちが多く、授業でわからないことがあると親切に教えてくださいました。私の大学生活は非常に充実した毎日、友人と楽しく過ごしています。さらに、大学では空きコマがあるため、1～5限まで授業を受けているわけではありません。空きコマの過ごし方は様々ありますが、私は

主に課題に取り組んでいます。高校の時は課題がある教科が少なかったため、順調に課題をこなすことができていました。しかし、大学ではほとんどの教科からレポートや宿題が出るため、計画的に取り組むことが大切になってきます。他の大学より課題が多いかもしれませんが、友達と助け合いながら日々取り組んでいます。週によっては空きコマの時間でアルバイトをした後に学校に行くときもあります。大学生活は今までの学生生活にくらべ、かなり自由時間が多いので時間管理を徹底し生活するようにしています。

そして、6月に行われた天使祭ではクラスのみならずコミュニケーションをとることができました。私のクラスでは「肉巻きおにぎり」をつくりました。販売では臨機応変に対応することが求められ、とても大変でしたが当日は沢山の皆さんが買いにきてくださり大繁盛でした。その結果、天使祭出店クラス部門第一位をとることができ、クラスの団結力が高まって、いい思い出になりました。後期には体育祭や、今年度は中止になってしまった合唱コンクールなどクラスでの行事がまだまだあるので、協力し良いものを作り上げられたらなと思っています。

最後になりますが、私は4年間で管理栄養士になるために沢山のことを学びたいと思っています。3年後に受験する国家試験に合格するためにも、日々の授業を大切に頑張りていきたいと思っています。



調理実習での一コマ

2022年度 進路・就職状況

学科・研究科	看護学科	栄養学科	大学院助産研究科	大学院看護学専攻	大学院栄養管理学専攻
就職決定者	71	81	14	6	1
進学決定者	20	0	0	0	0
進路希望無し	3	2	0	0	0
卒業者	94	86	14	6	1

【看護学科】就職・進学先

	看護師	進学
大学病院(国公立) ・北海道大学病院 ・札幌医科大学附属病院 ・岩手県立病院 ・国立大学法人千葉大学医学部附属病院 ・横浜国立大学附属病院	公立・公的・社会保険関係法人の病院 ・KKR札幌医療センター ・国家公務員共済組合連合会 斗南病院 ・札幌市立札幌病院 ・独立行政法人地域医療機能推進機構 ・帯広厚生病院 ・横須賀共済病院 ・日本赤十字社医療センター ・千葉県済生会習志野病院	看護系大学院 ・天使大学大学院 助産研究科 ・天使大学大学院 看護栄養学研究科 看護学専攻 保健師コース
大学病院(私立) ・北里大学病院 ・慶應義塾大学病院 ・杏林大学医学部付属病院 ・東邦大学医療センター 大橋病院 ・順天堂大学医学部附属練馬病院 ・順天堂大学医学部附属順天堂病院	福祉施設 ・株式会社ドリームバルーン	看護系その他 ・北海道科学大学 公衆衛生看護学専攻科 ・札幌医科大学専攻科 助産学専攻
一般病院 ・天使病院 ・札幌積心会病院 ・北海道脳神経外科記念病院 ・JR札幌病院 ・NTT東日本札幌病院 ・札幌東徳洲会病院 ・恵佑会札幌病院 ・札幌北楡病院 ・東札幌病院 ・札幌徳洲会病院 ・札幌西円山病院 ・愛心メモリアル病院 ・石金病院 ・開西病院 ・公益財団法人北海道勤労者医療協会 ・恵み野病院 ・がん研有明病院 ・高島平中央総合病院 ・明理会中央総合病院 ・館山病院 ・福寿会		

【栄養学科】就職先

	病院	保育所	一般企業
自治体 ・苫小牧市(管理栄養士) ・旭川市	病院 ・手稲深仁会病院 ・独立行政法人地域医療機能推進機構 北海道病院 ・恵み野病院 ・江別病院 ・札幌ふしこ内科・透析クリニック ・JA北海道厚生連 帯広厚生病院 ・開西病院 ・旭川医科大学病院 ・森山病院 ・保坂内科クリニック ・独立行政法人労働者健康安全機構 ・製鉄記念室蘭病院 ・独立行政法人地域医療機能推進機構 ・北海道中央労災病院	保育所 ・こども園・ひかりのこさっぽろ ・東川下ボッグ保育園 ・アルプス認定こども園 ・新川北保育園 ・北栄みどり保育園 ・認定こども園茨戸メリー幼稚園 ・さより第2保育園 ・ライクキッズ株式会社 ・楽城会 ・石狩友愛福祉会 ・緑ヶ丘療育園	一般企業 ・株式会社ツルハ ・株式会社サンドラッグプラス ・よつ葉乳業株式会社 ・株式会社もりもと ・株式会社ロイズコンフェクト ・生活協同組合コープさっぽろ ・大徳食品株式会社 ・サンマルコ食品株式会社 ・株式会社クワイエットエス・ディー ・株式会社ヤグチ ・株式会社マサール ・I&H株式会社 ・うね乃株式会社 ・株式会社ハイ・スタンダード ・株式会社アイティ・コミュニケーションズ
教育機関 ・北海道教育委員会(栄養教諭) ・札幌市教育委員会(栄養教諭) ・学校法人山口学園(調理師専門学校 助手)	福祉施設 ・社会福祉法人 札幌恵友会 ・社会福祉法人特別養護老人ホーム 清香園 ・特別養護老人ホームこもれびの里		
給食委託会社 ・株式会社北海道グリーンハウス ・エムサービス株式会社 ・コンパスグループ・ジャパン株式会社 ・株式会社日総 ・株式会社LEOC ・株式会社フレアサービス ・富士産業株式会社 ・シダックス株式会社 ・日清医療食品株式会社北海道支店			

【大学院】就職先

助産基礎分野	看護学専攻修士課程	栄養管理学専攻博士前期課程
・社会医療法人母恋 天使病院 ・札幌医科大学附属病院 ・医療法人深仁会 手稲深仁会病院 ・札幌東豊病院 ・JA北海道厚生連 旭川厚生病院	・社会福祉法人 北海道社会事業協会 ・帯広協栄病院 ・日本赤十字社 釧路赤十字病院 ・医療法人王子総合病院 ・砂川市立病院 ・医療法人社団高邦会 高木病院	・医療法人深仁会 札幌西円山病院 ・医療法人北仁会 旭山病院 ・医療法人徳洲会 札幌東徳洲会病院 ・平塚市役所 ・江別市
		栄養管理学専攻博士前期課程 ・医療法人社団朋佑会 札幌産科婦人科

選抜結果

看護学科			栄養学科			看護学専攻			栄養管理学専攻 博士前期課程			栄養管理学専攻 博士後期課程			助産研究科助産基礎分野		
選抜種別	受験者数	合格者数	選抜種別	受験者数	合格者数	選抜種別	受験者数	合格者数	選抜種別	受験者数	合格者数	選抜種別	受験者数	合格者数	選抜種別	受験者数	合格者数
公募制推薦	48	37	公募制推薦	51	46	推薦型	3	3	一般Ⅰ期	1	1	一般Ⅰ期	0	0	推薦型	30	13
社会人	1	0	社会人	2	2	一般Ⅰ期	7	3	一般Ⅱ期	0	0	一般Ⅱ期	1	1	一般Ⅰ期	32	6
一般	207	91	一般	49	43	一般Ⅱ期	3	2				社会人Ⅰ期	2	1	一般Ⅱ期	13	3
共通テスト利用	136	64	共通テスト利用	48	13	在宅看護CNS	1	0				社会人Ⅱ期	0	0			

あなたの声をお聞かせください

天使大学報「天使」では、読者のみなさまの声を生かした誌面づくりを目指しています。ご意見、ご感想、取り上げてほしい話題等ございましたら、下記あて先までお寄せください。

あて先／〒065-0013 北海道札幌市東区北13条東3丁目1-30 天使大学広報委員会 tel.011-741-1051 fax.011-741-1077



天使大学

看護栄養学部／看護学科・栄養学科
大学院／看護栄養学研究科・助産研究科(専門職学位課程)

〒065-0013 北海道札幌市東区北13条東3丁目1-30
TEL.011-741-1051 FAX.011-741-1077

第35号 2023年8月1日発行 天使大学広報委員会

<https://www.tenshi.ac.jp>

